

令和6年度 看護師職能Ⅰ委員会 活動報告

■委員名

委員長：松本ゆかり

副委員長：高濱和美

委員：米富サオリ 田代真理 古川久美子 松尾幸恵 西岡 綾 服部陽子
 遠藤さなゑ 芦田真知子 加藤 弘 佐藤隆平 大磯佳子

■活動目標

1. 地域包括ケアシステムの充実に向けた看護の連携・協働の推進
2. 若手看護師支援に向けた取り組み実施

■委員会開催状況と検討内容

回	開催日	出席者	内容
1	令和6年4月19日	13名	・令和6年度保健師助産師看護師合同職能集会企画
2	令和6年5月17日	12名	・令和6年度保健師助産師看護師合同職能集会講師打ち合わせ ・看護管理者訪問看護研修：日本看護学会演題登録準備 ・若手看護師支援のための研修企画検討
3	令和6年7月6日	10名	・令和6年度委員会運営方針共有・確認 ・令和6年度委員会活動計画共有 ・看護管理者のための訪問看護研修 研修評価アンケート検討 ・「新人と先輩看護師集まれ！二人三脚交流会」企画
4	令和6年9月14日	13名	・令和6年度保健師助産師看護師合同職能集会運営評価 ・看護師職能ⅠⅡ交流会運営確認 ・「新人と先輩看護師集まれ！二人三脚交流会」講師打ち合わせ ・看護管理者訪問看護研修：日本看護学会発表準備 ・看護師職能ⅠⅡ交流会開催
5	令和6年10月12日	12名	・看護師職能ⅠⅡ交流会 アンケート結果共有・研修報告 ・「新人と先輩看護師集まれ！二人三脚交流会」研修当日準備 ・「新人と先輩看護師集まれ！二人三脚交流会」開催
6	令和6年11月15日	9名	・日本看護学会発表報告 ・「新人と先輩看護師集まれ！二人三脚交流会」 研修アンケートデータ整理 ・看護管理者訪問看護研修参加状況把握と推進検討 ・令和6年度活動報告（案）作成
7	令和6年12月20日	11名	・日本看護協会「看護の将来ビジョン」に関する意見交換 ・書籍執筆 初稿加筆修正 進捗状況共有 ・令和7年度活動計画検討 ・令和7年度看Ⅰ・Ⅱ交流会企画検討
8	令和7年1月17日	11名	・令和7年度活動計画検討 ・タスク・シフト/シェアに関する情報交換
9	令和7年2月19日	9名	・令和6年度活動報告内容検討 ・令和7年度活動計画検討
10	令和7年3月21日	13名	・全国職能委員長会議報告 ・令和6年度活動報告決定 ・令和7年度活動計画決定

■活動内容	1. 保健師助産師看護師合同職能集会 日 時：令和6年6月20日 9：30～12：00 場 所：兵庫県看護協会会館（オンライン併用） 内 容：令和5年度看護師職能Ⅰ委員会活動報告 令和6年度看護師職能Ⅰ委員会活動計画 特別講演 テーマ：中堅看護師を支える・育てる“コツ”と効果的な関わり方 講 師：愛媛大学医学部附属病院 総合臨床研修センター 助教 内藤知佐子 氏 参加者：268名（会場119名 オンライン149名） 2. 保健師助産師看護師職能合同交流会 日 時：令和6年8月31日 台風のため中止 3. 看護師職能ⅠⅡ委員会合同交流会 日 時：令和6年9月14日 13：30～16：30 場 所：兵庫県看護協会会館（オンライン併用） テーマ：看看連携推進に向けた看護師の役割 ～病院と在宅の看護師が繋がる体制づくりとは～ 講 師：木村病院 看護部長 成定啓子 氏 参加者：91名（会場37名 オンライン54名） 4. 学術集会 実践報告発表 学会名：第55回日本看護学会学術集会 開催地：熊本城ホール 発表者：田代真理 氏（共著：芦田真知子・関滝江・安井啓子・松本ゆかり） テーマ：看護管理者のための訪問看護研修の取り組み ～地域包括ケア推進のカギとなる看護管理者の育成を目指して～ 内 容：『看護管理者のための訪問看護研修実施要項』作成、研修普及目的の交流会開催、研修実施成果と課題について発表 5. 新人と先輩看護師集まれ！ 二人三脚交流会 日 時：令和6年10月12日 13：30～16：30 場 所：兵庫県看護協会会館 講 師：愛媛大学医学部附属病院 総合臨床研修センター助教 内藤知佐子 氏 参加者：28組56名（新人・先輩看護師）オブザーバー（施設研修企画担当）2名
■活動の評価	1. 地域包括ケアシステムの充実に向けた看護の連携・協働の推進 1) 看護管理者の訪問看護研修に関する取り組み 昨年度事業を継続し、協会事業部の協力を得ながら『看護管理者の訪問看護研修』要項をブラッシュアップしながら令和6年7月～令和7年1月まで研修開催し、参加者は17名であった。研修後の評価はほぼ肯定的であった。 本研修について第55回日本看護学会学術集会で実践報告を行った。研修要項作成～研修実施までの取り組みを発表し、①研修前後比較調査による、研修後肯定的評価の増加②地域の医療・介護における研修生の自施設での役割認識と課題の明確化③JNA マネージメントラダー指標と合致した看護管理者育成に活用できる研修④研修意義と目的について広報と研修普及への課題。以上4点を主旨として報告することができた。

	2) 看護師職能ⅠⅡ委員会合同交流会開催 交流会プログラムの講演会における学びは大きく、続けて行われたグループワークでの活発な意見交換に繋がり、各領域・施設間で悩みの共有や相互理解の場となった。交流会後アンケートでは、とても活用できる・活用できるとの回答が95%を占め、アンケート結果から、看護師職能Ⅰ・Ⅱ領域間の課題は多岐にわたるが、課題解決のための看看連携の重要性を認識できる有意義かつ貴重な交流会であった。 2. 若手看護師支援に向けた取り組み実施 昨年度に続き『新人と先輩看護師集まれ！二人三脚交流会』を開催した。昨年度評価から研修効果を高めるための検討を重ね今年度の交流会を開催した。新人・先輩看護師の28ペアが参加した。また研修運営を参考にできるよう、今年度はオブザーバー参加を募集し2施設2名の参加があった。研修の進行とともに活発な意見交換となり、先輩・新人看護師の心理的距離感の縮まりを感じる交流会となった。 研修効果を客観的に評価するため『日本語版 Rosenberg 自尊感情尺度』を用いて、研修前後比較アンケートを実施した。アンケート結果から本研修の開催時期・時間が適切であったとの評価が得られた。『お互いの理解』『関心』『身近存在に感じる』という項目では、研修後に肯定的割合が上がっており研修効果あったことがわかる。研修主催者である本委員会の研修目的はほぼ達成できたと評価できるが、臨床の場で本研修が活かされているか、各所属施設での評価を加味した長期的効果の検証については今後の課題とする。
■今後の課題	・委員会主催研修の効果検証と研修継続 ・「看護管理者の訪問看護研修」の普及 ・若手看護師を支えるための課題抽出と方策検討